

<農業生産条件の強化（自己施工）に取り組む事例>

○持続的生産活動を通じた多面的集落機能の維持

1. 集落協定の概要

市町村・協定名	北海道北見市 <small>きたみし</small> 留辺蘂町 <small>るべしべちよう</small> 温根湯 <small>おんねゆ</small>			
協定面積 263 ha	田	畑 (22%) 小麦・豆・馬鈴薯・てん菜	草地 (78%) 牧草	採草放牧地
交付金額 819万円	個人配分			50 %
	共同取組活動 (50%)	集落の管理体制に係る経費		3 %
		農業生産活動等		11 %
		農業生産活動等の体制整備		36 %
協定参加者	農業者79人、牧野利用組合 1、鹿柵管理用組合 1			開始：平成14年度

2. 取組に至る経緯

当集落は畑作を中心とした畑作・野菜・酪農の複合経営地帯であるが、経営者の高齢化や後継者不足が課題となっており、集落内全体の労働力不足と耕作放棄地の発生が懸念されている。このため、第2期対策では、経営の効率化をめざした機械の共同利用の拡充、環境保全と農村景観の形成に向けた廃農機具等の処分や景観緑肥の作付け、農地の適正な保全のためにエゾ鹿侵入防止柵の維持管理を集落全体で行うなど課題解決に向け多様な取り組みを行ってきた。第3期対策については、これまでの取組内容を精査し、持続的な農業生産活動を通じ集落の持つ多面的機能の確保を図ることとした。

3. 取組の内容

- ・農業生産条件強化のための取組

機械の共同利用による土壌改良資材の投入面積の増加とコスト低減をめざす。

- ・農用地等保全体制整備の取組

食害防止のためのエゾ鹿侵入防止柵の点検、補修などの維持管理

- ・農村景観の整備

観光地である温根湯温泉の周辺地域のため、廃農機具等の回収を実施

- ・農業生産活動等の継続に向けた活動

粗飼料給与を補完する松山・大和牧場の維持管理



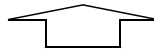
【土壌改良材の投入】



【エゾ鹿侵入防止柵の維持管理】

【集落の将来像】

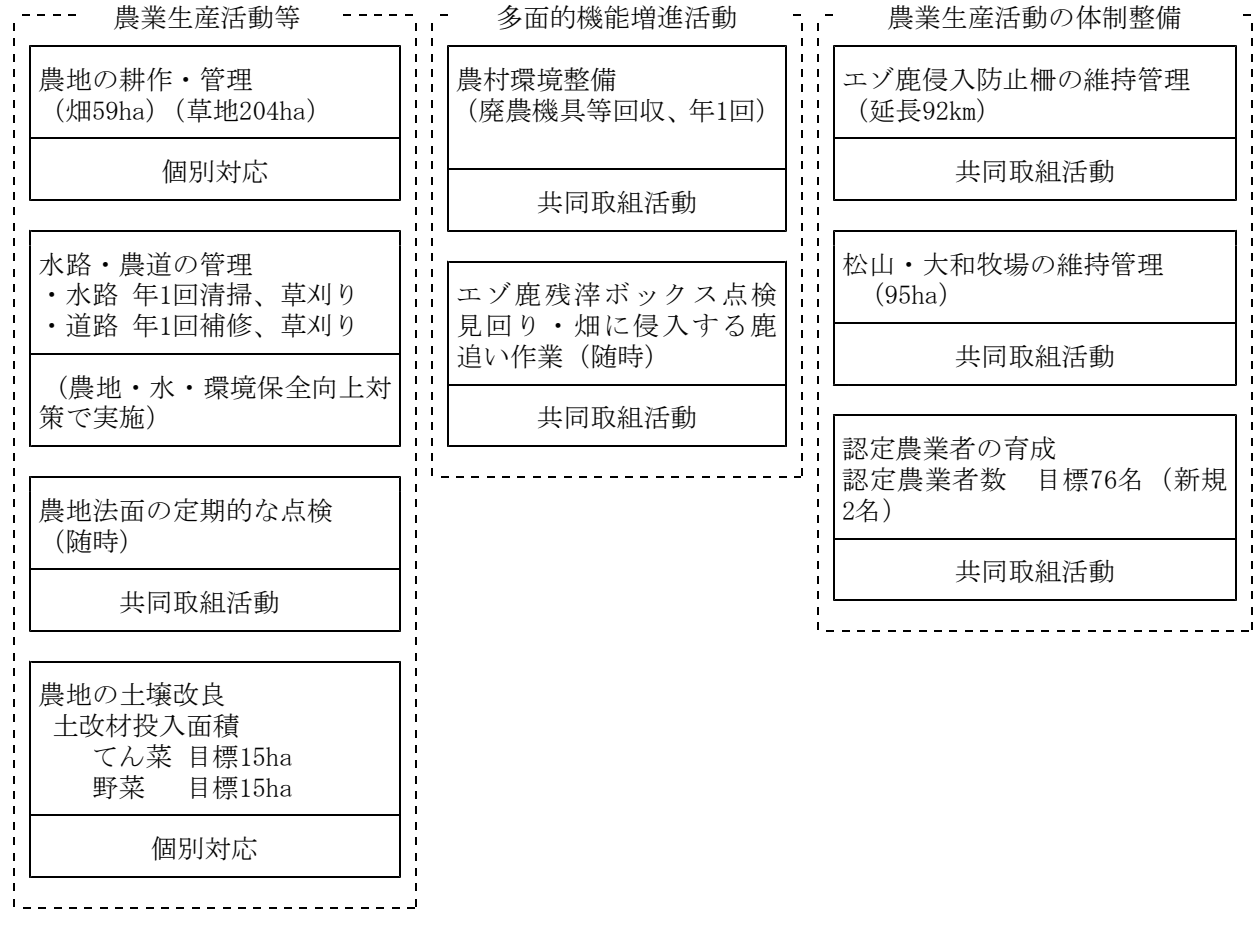
- 農業経営に意欲のある担い手の育成確保を推進する。
- 農業生産条件の強化のため、機械の共同利用による土改材投入コスト低減をめざす。



【将来像を実現するための活動目標】

- 認定農業者の育成 76名（新規2名）
- 土改材投入面積 てん菜 現況H22: 5.0ha、H26目標:15.0ha
野菜 現況H22:10.0ha、H26目標:15.0ha

【活動内容】



4. 今後の課題等

エゾ鹿侵入防止柵を設置しているが、依然として農業被害が発生しており、域内においてもハンターの高齢化が進み、今後減少するおそれがあるため、農業者の危機感も増大してきた。くくりわなは被害軽減に有効な自衛手段であることから、狩猟免許取得の機運が高まり、農業者の要請を受けた北見市留辺蘂総合支所産業課が道へ「狩猟免許出前教室」開催の申請を行い、平成23年1月に集落内で開催された。

【第2期対策の主な成果】

- 機械の共同利用（飼料作物H17:26ha、H21実績:59ha・牧草収穫H17:19ha、H21実績:72ha）
- 認定農業者の育成（H17:63名、H21実績:76名）
- 廃農機具等の処分（H17:未処分19戸、H21実績:未処分0戸）

<他集落との連携、高齢農家等への支援に取り組む事例>

○高齢農家等へのサポート体制の確立

1. 集落協定の概要

市町村・協定名	いわないぐんきょうわちょうがくでんちく 北海道岩内郡共和町学田地区			
協定面積 46.3ha	田(100%)	畑	草地	採草放牧地
	水稲・小麦・馬鈴薯 他			
交付金額 973万円	個人配分	50%		
	共同取組活動 (50%)	集落の各担当者の活動に対する経費		4%
		農業生産活動等に対する経費		17%
		農業生産活動等の体制整備に対する経費		28%
その他(事務費等)		1%		
協定参加者	農業者23人			開始：平成12年度

2. 取組に至る経緯

年々農業者の高齢化が進み、将来的にも何か対策を考えなければならない状況の中、平成12年度にこの事業が始まるのをきっかけに集落協定を締結。その中で農作業の効率化、低コスト化が期待できる機械・農作業の共同化や、高齢農家等への支援体制への取組について実施することとし、現在も継続して行っている。

3. 取組の内容

共同で支え合う集団的かつ持続可能な体制整備を目標に取組を推進しており、集落内の合意形成を基に、継続して取り組んでいる農業生産活動として、農地の耕作及び適切な管理、農道の草刈、水路の草刈・泥上げ清掃、降雨時等の農地パトロールを行っている。

また多面的機能増進活動として、集会施設及び施設周辺の清掃や花壇整備を行っている。

さらに、グリーンツーリズム活動として従前より地区内で活動している「共和町ふれあい農園」では当制度を活用し、農業体験はもちろんのこと、収穫祭など様々な形による地元農業者との交流を通じ、地産地消の取り組みを進めている。



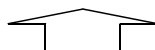
【集会施設周辺環境整備（花壇整備）】



【市民・体験農園の開設運営（ふれあい農園）】

[集落の将来像]

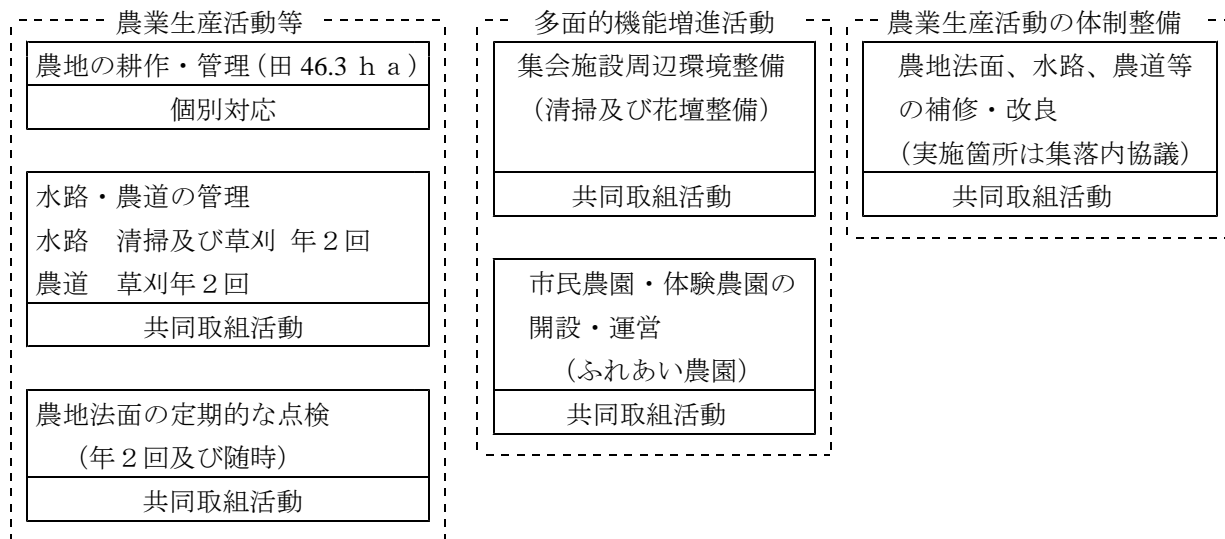
年々高齢化が進む状況の中で今後の耕作維持が懸念されるが、集落ぐるみの共同取組活動により、農業生産活動を持続的に進め、耕作放棄地の発生を防止する。



[将来像を実現するための活動目標]

○協定農用地において農業の継続が困難な農用地が発生した場合は、集落ぐるみの共同取組活動により、農業生産活動等の維持を図る。

[活 動 内 容]



4. 今後の課題等

第 1 期・ 2 期対策と本制度を活用し地区内の環境美化、農業機械・農作業の共同化推進などの取組を実施してきた。また、第 3 期対策より高齢者等のサポート体制づくりを通じ、今後の集落のあり方を話し合う場の確保や、対策へ向けての取組により高齢者等が安心して農業生産活動を行うことが出来ている。

また今後においても、耕作地の維持に向けた話し合いを随時行い、集落内の連携を密にすることが重要である。

[第 2 期対策の主な成果]

- 機械・農作業の共同化 (当初1.9ha、目標6.0ha、H21実績8.4ha)
- 認定農業者の育成 (目標 1 名以上の認定、H21実績 4 名の認定)

<その他、取組に特徴のある事例>

○不法投棄防止パトロール

1. 集落協定の概要

市町村・協定名	北海道樺戸郡浦臼町 <small>かばとぐんうらうすちやう</small> 浦臼 <small>うらうす</small>			
協定面積 26ha	田 (100%) 水稻・そば・麦	畑	草地	採草放牧地
交付金額 566万円	個人配分	50%		
	共同取組活動 (50%)	各担当者の活動に対する経費	13%	
		農業生産活動等に対する経費	25%	
		体制整備等に対する経費	9%	
		その他	3%	
協定参加者	農業者 13人			開始：平成13年度

2. 取組に至る経緯

- 浦臼集落では、不法投棄防止の啓発活動を第1期対策から農地保全活動の一環で実施してきた。この取組を始める前は、協定地内に不法投棄物が見受けられたため、このままでは農作業にも支障を来す恐れも出て来るとの認識を持った。このため、少しでも不法投棄の防止が出来るようにとの考え方から、中山間地域等直接支払交付金を活用して不法投棄防止パトロールを毎年実施することとし、現在も継続して実施している。

3. 取組の内容

- 本取組は、本事業開始より協定取組活動として位置づけて、毎年10月下旬に実施している。本年度は10月29日、車両5台に防止啓発看板を取り付け、町内全域で車列を組み運行し、少しでも不法投棄が無くなることを目指して、町民に防止を呼びかけた。啓発活動は年1回行うとともに、協定農用地及び隣地の保全のため、協定参加者は随時巡回し、不法投棄に目を光らせている。



協定農用地風景



役場前にて活動報告

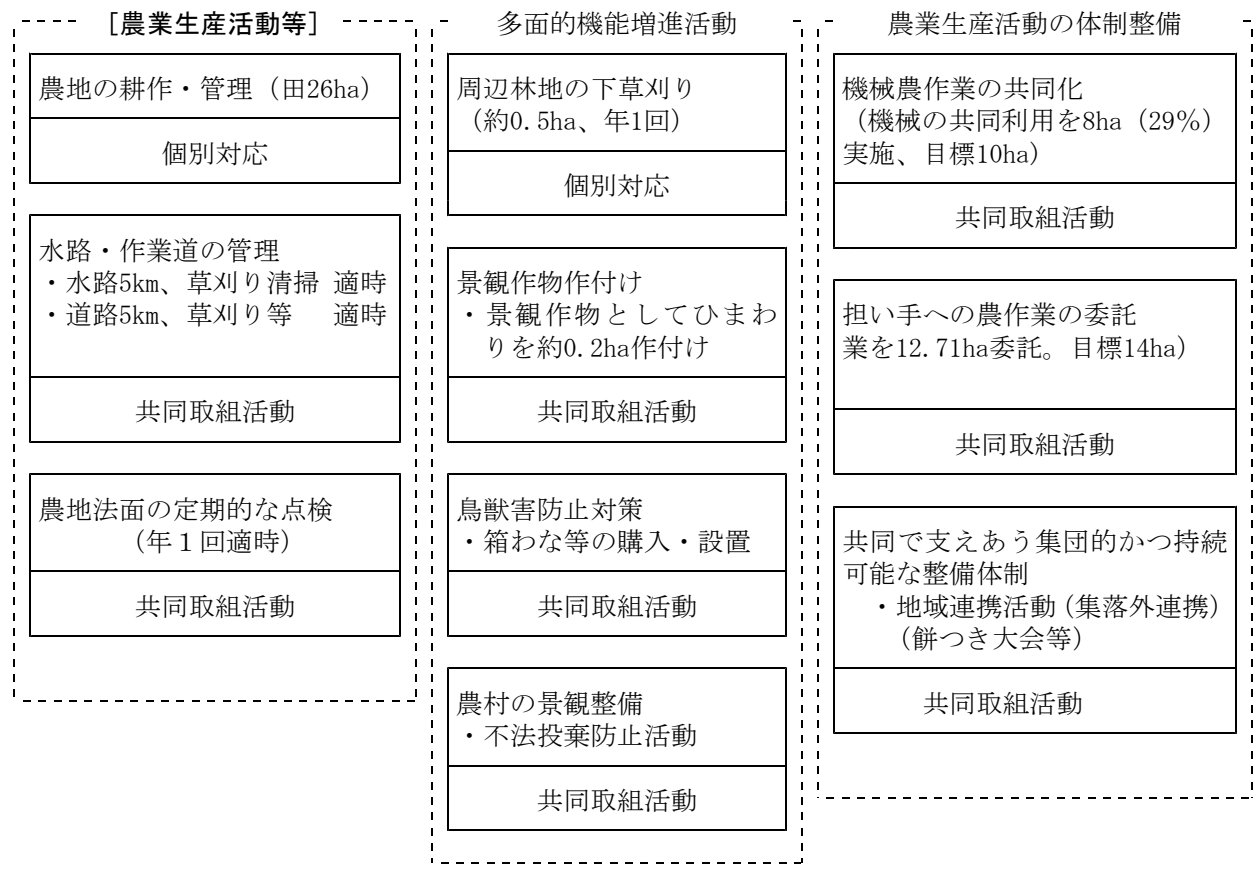
【集落の将来像】

- 集落ぐるみの農業生産活動等体制整備を進めていく。
- 地域の実情に即した持続的な農業生産活動等の体制整備を進める。



【将来像を実現するための活動目標】

- そば等の基幹的農作業の機械共同化
- 麦・そば等の受委託斡旋
- 地域連携活動（地域餅つき等）の実施



4. 今後の課題等

本事業1期、2期対策を実施し、協定者の農地保全に対する意識がかなり高くなっている反面、協定者の高齢化が進んでいるのが現状となっており、今後も関係機関の協力の下、担い手等による利用集積を推進して行く。

【第2期対策の主な成果】

- 不法投棄防止活動（H17~H21 不法投棄発生件数0件）
- 鳥獣害防止活動（H17:0、H21:箱わな設置5ヶ所・きつね、アライグマ）
- 作業受委託（H17:1ha、H21:12.7ha）
- 高付加価値型農業の実践（葡萄の作付け）
- 地域住民との交流による地域の活性化
 - ・ 地域連携活動 餅つき大会（H20:1回60名、H21:1回100名）

〇もちの加工・販売推進への取り組み

1. 集落協定の概要

市町村・協定名	北海道 <small>かみかわぐん あいべつちよう きようわ</small> 上川郡 愛別町 協和			
協定面積 6ha	田 (100%)	畑	草地	採草放牧地
	糯米・そば・牧草			
交付金額 123万円	個人配分			50%
	共同取組活動 (50%)	役員手当		3%
		水路・農道等の管理 (清掃、草刈り)		12%
		農村景観の整備 (会館等周辺清掃)		5%
		生産性・収益の向上 (共同機械の導入経費助成)		29%
	事務費		1%	
協定参加者	農業者 7人、特定農業法人 1法人、非農業者 4人			開始：平成12年度

2. 取組に至る経緯

当集落は、過疎化・高齢化の影響により、集落機能の低下が見られ、農業振興上大きな課題となっていたが、平成12年度からの本対策の実施により、積極的な農業生産活動及び共同活動が実施され、集落の活性化が図られている。

また、地域の主要な担い手である特定農業法人を核とした営農活動が行われていたこともあり、本対策においても、集落のまとめ役として重要な役割を果たし、多様な共同活動が展開されている。

3. 取組の内容

当集落においては、平成19年度から協定参加者の中核を担う特定農業法人により、もちの加工・販売が開始されている。

今期対策からは、協定農用地で収穫されたもち米も使用し、協定参加者の大半がもちの加工・販売に携わっていることから共同取組活動として位置づけることとした。

今後は交付金を施設整備費等へ活用することも考慮しながら、さらなる加工・販売の推進を図っていききたいと考えている。

これにより、新たな雇用の創出、所得の向上を図り、地域活性化に繋げていく。



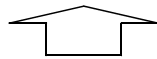
【集落話し合いの風景】



【もち工房愛ふくふく もちの加工品】

[集落の将来像]

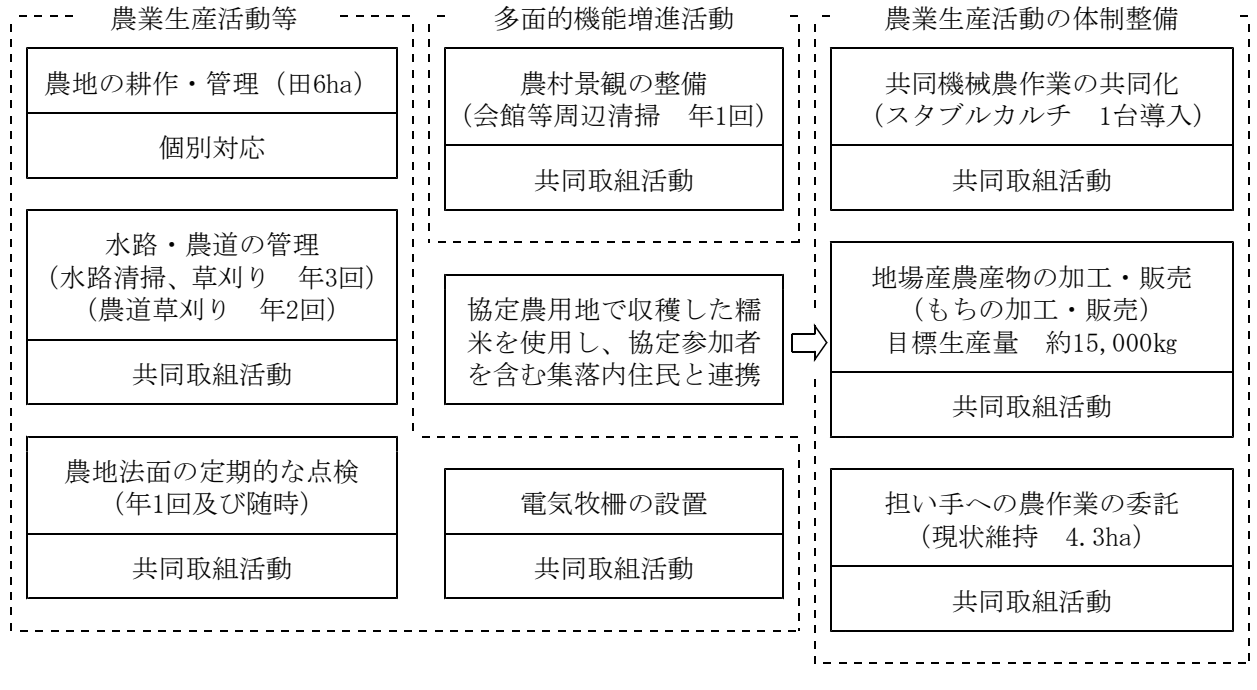
○集積対象者を核とし、地域の実情に即した持続的な農業生産活動等の体制整備



[将来像を実現するための活動目標]

- 機械・農作業の共同化（共同機械導入経費助成 スタブルカルチ 1台）
- 地場産農産物の加工・販売（もちの加工・販売 目標生産量 約15,000kg）
- 担い手への農作業の委託（現状維持 4.3ha）
- 共同で支え合う集約的かつ持続可能な体制整備

[活 動 内 容]



4. 今後の課題等

現在取り組んでいる共同活動を基礎とし、活動の評価や活動項目・手法の見直しが必要であり、継続した集落内での話し合いが重要である。

また、もちの加工・販売を推進し、新たな雇用の創出や所得の向上を図り、地域の活性化に繋げていくとともに、共同機械の導入による作業効率の向上、特定農業法人を中心とした積極的な農業生産活動を行っていく。

[第2期対策の主な成果]

- 水路・農道の管理（清掃、草刈り、補修 年3回及び随時）
- 稲わらの収集・搬出（協定農用地のうち 2ha）
- 農業機械の共同作業・利用の推進（農作業の共同化 6ha）
- 共同機械更新による作業効率の向上（ハーフクローラトラクターの導入経費助成 1台）
- 担い手への農作業委託の継続実施（農作業委託 4.3ha）
- 地域農業の関心を促す学校農園活動の推進（学校農園への苗の供給と農作業指導 年3回）

○高齢化等による耕作放棄地の防止対策の取組み

1. 集落協定の概要

市町村・協定名	北海道空知郡南富良野町下金山 <small>そらちぐんみなみふらのちょうしもかなやま</small>			
協定面積 144 ha	田 (100%) もち米 麦 牧草等	畑	草地	採草放牧地
交付金額 1,033万円	個人配分			50%
	共同取組活動 (50%)	集落の各担当者の活動に対する経費		2%
		農業生産活動に対する経費		15%
		農業生産活動等の体制整備に対する経費		23%
		その他	10%	
協定参加者	農業者 26人			開始：平成12年度

2. 取組に至る経緯

当集落は、農家の高齢化や担い手の減少による耕作放棄地の増加が懸念されていることから、農業機械の共同利用を推進し、作業効率の向上を図るとともに、作業受委託を実施し、労働力の不足を解消する必要があった。

このため、本制度を活用し、機械の共同利用や作業受委託を行うとともに、併せて水路や農道の管理等に取り組んでいる。

3. 取組の内容

農業者の高齢化が進み、作業の省力化や経費の節減のために農作業受委託や農業機械の共同作業を進めている。平成22年度には小麦の播種作業と整地作業を合わせて約60haの農用地において実施している。

また、地場産農産物等を加工・販売するため、下金山集落と隣接する金山集落の協定参加農家が合同で集落内に農産物直売所「さくら」を平成18年4月に開設し、年間の売り上げ額は約530万円ほどとなっている。

その他にも、水路の改修や農道のコンクリート舗装や、集落内の地域活動・行事にも積極的に取り組んでいる。



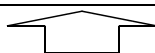
【共同による草刈り作業】



【作業受委託、共同作業】

【集落の将来像】

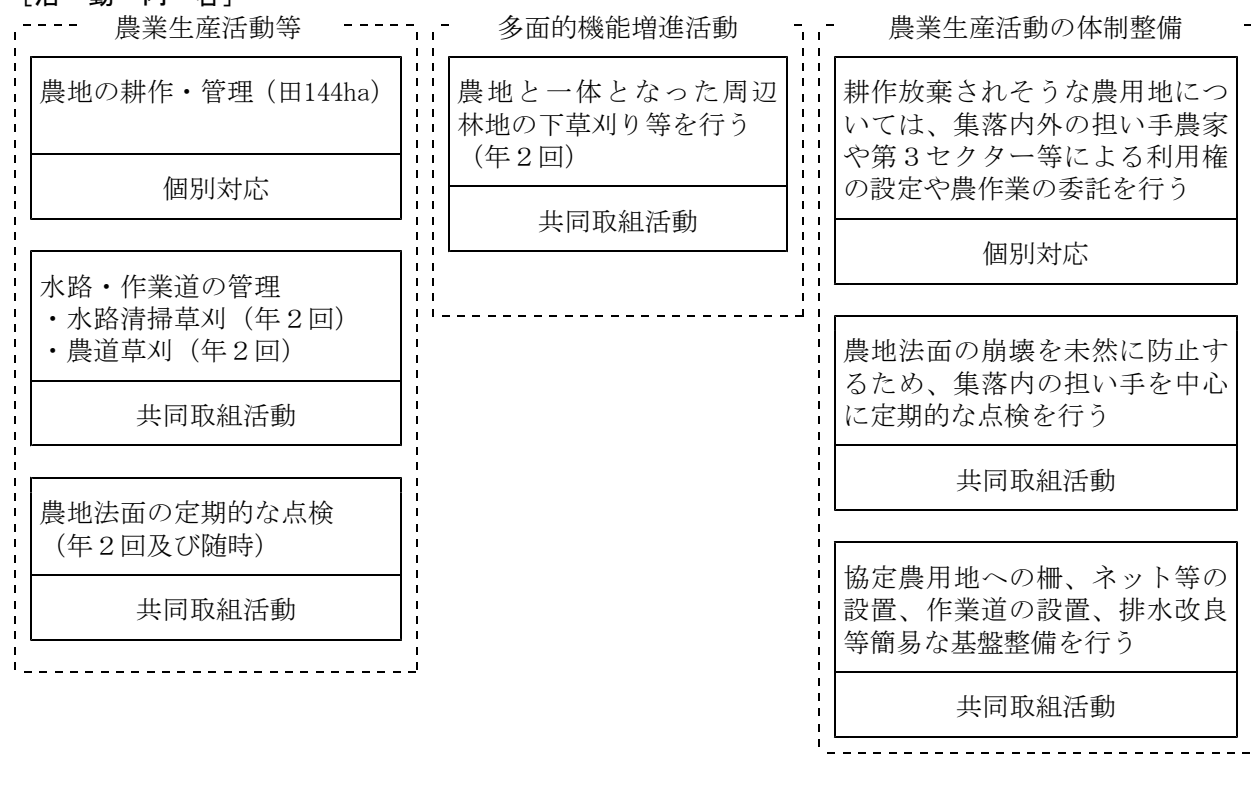
- 当集落では、農業者の高齢化などにより、今後、耕作放棄地の広がりが懸念されることから、担い手を中心とした、農業機械での共同利用の推進、労働力不足を解消するための作業受委託などに取り組む。



【将来像を実現するための活動目標】

- 機械・農作業の共同化等営農組織の育成
- 地場産農産物等の加工・販売組織の育成
- 鳥獣による被害の防止対策、維持管理

【活動内容】



4. 今後の課題等

- ・対象農用地の管理をはじめ共同取組活動は、適正に実施し計画した目標を達成する。集落全体の農業収益の向上を目指し有効に活用する。
農産物直売所「さくら」の運営主体をどのようにするか法人化等を含め検討中

【第2期対策の主な成果】

- 水路管理、農道管理の適正な維持管理ができた。（水路の清掃 500m、水路の補修 300m）
- 離農等による、耕作放棄地の新規発生が防止できた。（新規発生面積 0 ha）
- 鳥獣害対策として鹿柵を道営中山間総合整備事業により整備し、被害の低減が図られた。

○農作業等の共同化による集落営農組織の推進

1. 集落協定の概要

市町村・協定名	北海道 <small>えさしぐん</small> 枝幸郡 <small>なかとんべつちよう</small> 中頓別町 <small>なかとんべつ</small> 中頓別			
協定面積 2,712ha	田	畑	草地 (100%) 牧草	採草放牧地
交付金額 3,254万円	個人配分			48%
	共同取組活動 (52%)	管理体制に係る経費		3%
		農業生産活動等		16%
		農業生産活動等の体制整備		32%
		その他	1%	
協定参加者	農業者 49人			開始：平成12年度

2. 取組に至る経緯

本集落は担い手の高齢化と農家戸数の減少が進み、労働力不足や施設の老朽化などの様々な問題を抱えている。

第2期対策では、労働力の省力化と生産性の向上に向け農作業の共同化による農業支援システムの仕組みづくりとしてコントラクター組織の整備を行ったが、将来的には集落営農組織による作業受託の体制整備が求められている。

また、担い手の高齢化に伴う労働力の軽減対策として、公共牧場への預託の推進を図るとともに、公共牧場の整備と草地の維持管理を継続する必要がある。

3. 取組の内容

本集落では集落営農組織の育成や法人化の推進を将来構想と位置付け、第3期対策においては、第2期対策で取り組んできたコントラクター組織の充実を図るため、粗飼料収穫作業以外にも家畜糞尿処理の受託作業などに取り組むとともに、大型機械導入に伴い取付道路や耕作道の整備を進め作業面積の拡大を図る。

また、高齢化による農家戸数の減少に対し、認定農業者の育成及び新規就農者の確保のための体制づくりを推進する。



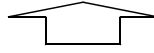
【集落の話し合い状況】



【コントラクターによる粗飼料収穫作業】

【集落の将来像】

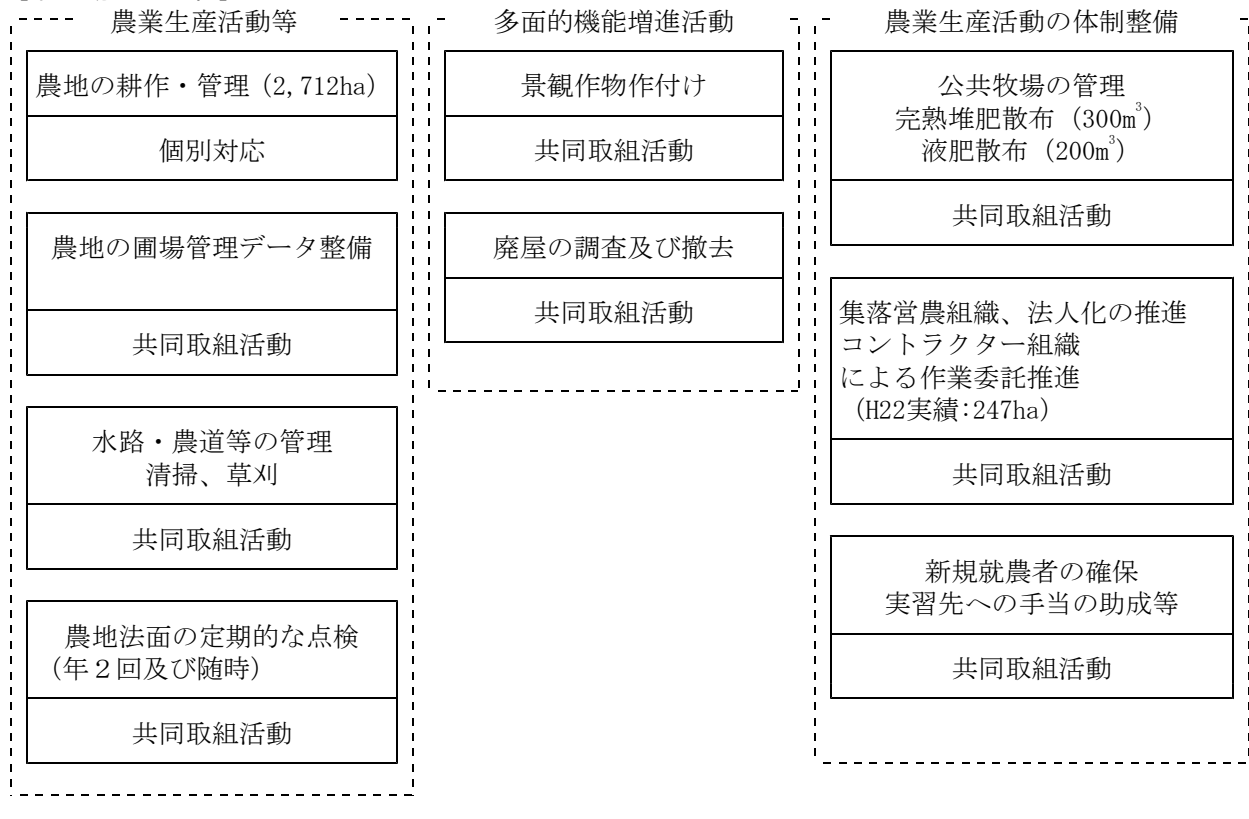
本集落は、担い手農家の高齢化と農家戸数の減少が進み、労働力や担い手不足が懸念される。そのため、労働力不足の改善策として、農作業の共同化営農組織の育成に取り組むとともに、担い手対策として新規就農希望者の受け入れ体制を整備する。
また、規模拡大による生産性の向上に向け、担い手への農地の利用集積を推進する。



【将来像を実現するための活動目標】

1. 機械・農作業の共同化等営農組織の育成（目標350ha）
2. 新規就農者の確保（目標1戸）
3. 担い手への農地集積（目標1戸あたり52ha）

【活動内容】



4. 今後の課題等

コントラクター組織による共同作業の体制が整備されたが、今後は作業面積の増加と利用率の向上を図るとともに、利用農家の拡大を図る必要がある。

今年から新規就農希望者の研修受入を開始しているが、新規就農者の受入れに対する集落参加者の意識の向上が図られているため、就農に向けた環境整備が急がれる。

【第2期対策の主な成果】

- 担い手への農地の流動化対策 (H17: 47ha、H21: 51ha)
- 規模拡大志向農家の体質強化 (H17飼養頭数: 68頭、H21飼養頭数: 72頭)
- 農業支援システムの確立、機械・農作業の共同化の推進
(コントラクター組織の設立 作業委託面積H21: 130ha、共同機械の導入(糞尿処理機械))
- 認定農業者の育成 (H21実績 39名)

○担い手への農作業委託

1. 集落協定の概要

市町村・協定名	北海道 <small>えさしぐん</small> 枝幸郡 <small>えさしちやう</small> 枝幸町 <small>うたのぼりちく</small> 歌登地区			
協定面積 2,654ha	田	畑	草地(100%) 牧草	採草放牧地
交付金額 3,981万円	個人配分			48.5%
	共同取組活動 (52%)	集落の管理体制(保全マップ実施) 農業生産活動等の体制整備		38.5% 13%
協定参加者	農業者 46人			開始:平成17年度

2. 取組に至る経緯

当集落は、宗谷管内最南部に位置し、傾斜地が多い立地特性から、農業生産活動を通じ、国土保全・水源かん養・良好な景観形成等の多面的機能の確保に努めている。

しかしながら、担い手の高齢化・減少に伴い、耕作放棄地の発生による多面的機能の低下が懸念されるため、農業生産条件の不利を解消する目標を掲げ、第2期策で行った取組を更に充実させ、集落で農業生産活動の体制整備に取り組むことにした。

3. 取組の内容

当集落における農業生産環境は傾斜地や河川が多いことにより、農地法面の崩壊を未然に防止するため、集落内の担い手を中心に水路清掃や定期的な点検を行うと同時に、本交付金を活用して草地更新、水路・農道の整備を行っている。

また、経営規模拡大及び経営主の高齢化に伴い、粗飼料収穫作業の自己完結が難しくなっていること、並びに、良質粗飼料確保への意識が高まっていることから、本交付金を活用して導入した大型共同機械を利用するとともに、担い手へ作業委託を進めている。このことにより、好天条件下で短期間のうちに円滑な作業を行う事ができるようになり、良質粗飼料の確保及び採草時の労働力の軽減が図られるようになった。



【法面点検と水路清掃】



【大型機械共同作業】

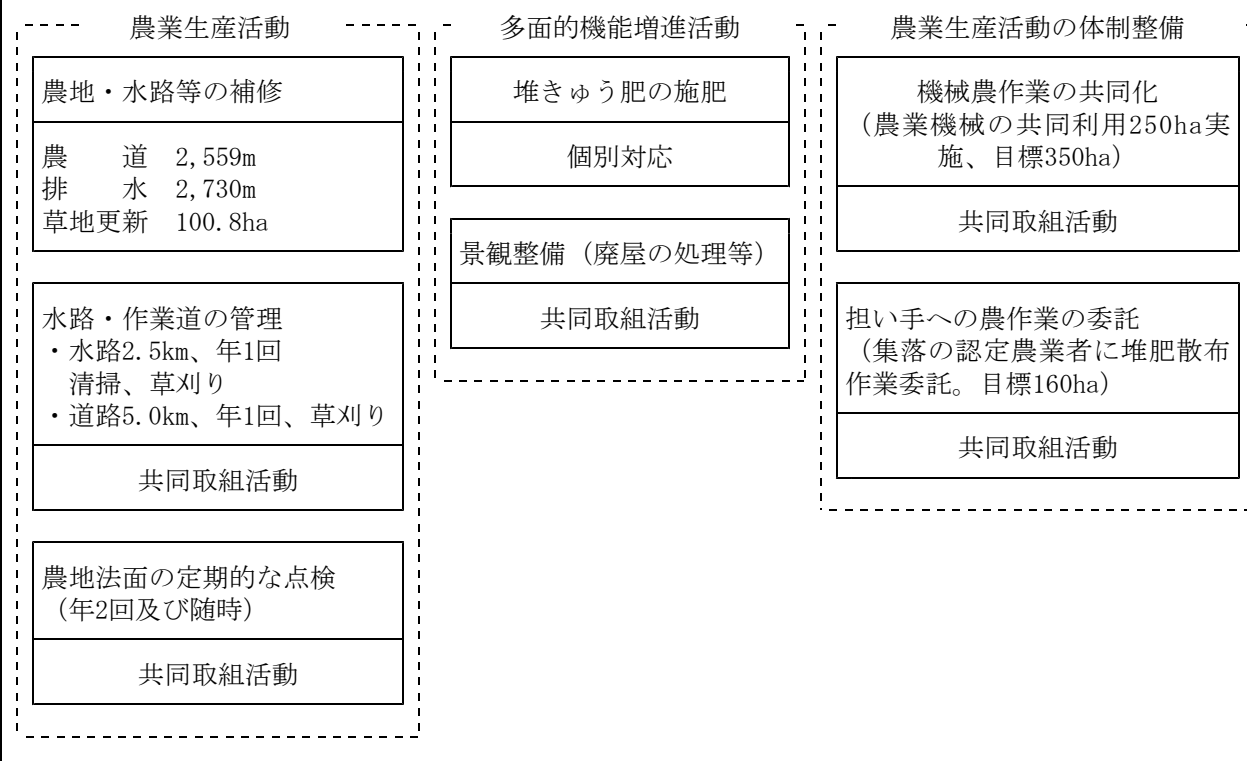
[集落の将来像]

当集落は、傾斜地が多い立地特性から、農業生産活動を通じ、国土保全・水源かん養・良好な景観形成等、多面的機能を発揮しているが、担い手の高齢化・減少に伴い多面的機能の低下が懸念されるため、農業生産条件を解消し多面的機能の維持増進を図る。



[将来像を実現するための活動目標]

[活動内容]



4. 今後の課題等

農業生産活動等の体制整備として取り組んだ、農道・排水路・草地の整備により、耕作放棄地の発生防止につながっている。さらに、営農組織の育成では、6戸の酪農家が250haの採草地に対し、共同組織を立ち上げ、大型機械導入により採草作業時の労働力軽減及び良質粗飼料確保が可能となった。このことにより、個人同士での共同作業も行う傾向が現れている。

今後は、当制度で取り組みを始めた活動を、いかに維持・継続するとともに、さらなる発展をさせることができるのかということが課題としてあげられる。

[第2期対策の主な成果]

- 学校との連携により外来種の駆除(ウチダザリガニ)実施(H19 23名、H20 20名、H21 22名)
- 認定農業者の育成(当初49名、目標50名、H21実績50名)
- 営農組織の育成(大型機械共同作業)6戸 250ha実施

< その他、取組に特徴のある事例 >

農村景観を保持するための環境整備

1. 集落協定の概要

市町村・協定名	北海道 <small>とくしんぐん</small> 十勝郡 <small>うらへしやう</small> 浦幌町 <small>とよきた</small> 豊北			
協定面積 548ha	田	畑	草地(100%) 牧草	採草放牧地
交付金額 823万円	個人配分			38%
	共同取組活動 (62%)	多面的機能増進活動費		40%
		水路・農道等の維持管理費		5%
		公共牧場の維持管理費		4%
	その他		13%	
協定参加者	農業者 18人、水利組合 1団体、農業生産法人 2法人、その他 1団体			

2. 取組に至る経緯

- ・当集落は、生乳を主体とする酪農経営の土地利用型農業を展開しているが、担い手の高齢化・減少等により農村の多面的な機能の保持が懸念されており、集落全体で適正な農用地の維持管理、環境整備、廃プラスチック類の共同処理や堆きゅう肥の還元による環境対策を行うことによって、農業生産活動の維持、安定的な農業の経営の育成・強化、良好な農村景観の保持することが必要である。

3. 取組の内容

- ・農道及び排水路の維持管理

当地区は海岸に近く地下水位が高いことから、排水路の維持管理が重要（写真）

- ・集会所周辺の環境整備

地域の意志決定・交流の場となっている集会所の環境維持のため、草刈り等を実施（写真）

- ・廃プラスチック類の共同処理：毎月実施 環境の維持改善に効果
- ・廃農機具等の共同処理：継続的な取組により、景観や環境が向上
- ・農地への堆きゅう肥還元：環境改善及び草地の生産性維持向上
- ・畜舎周辺で問題となっている鳥獣（カラス）対策に取り組むこととし効果を検証



排水路の整備作業



集会所の環境整備作業

【集落の将来像】

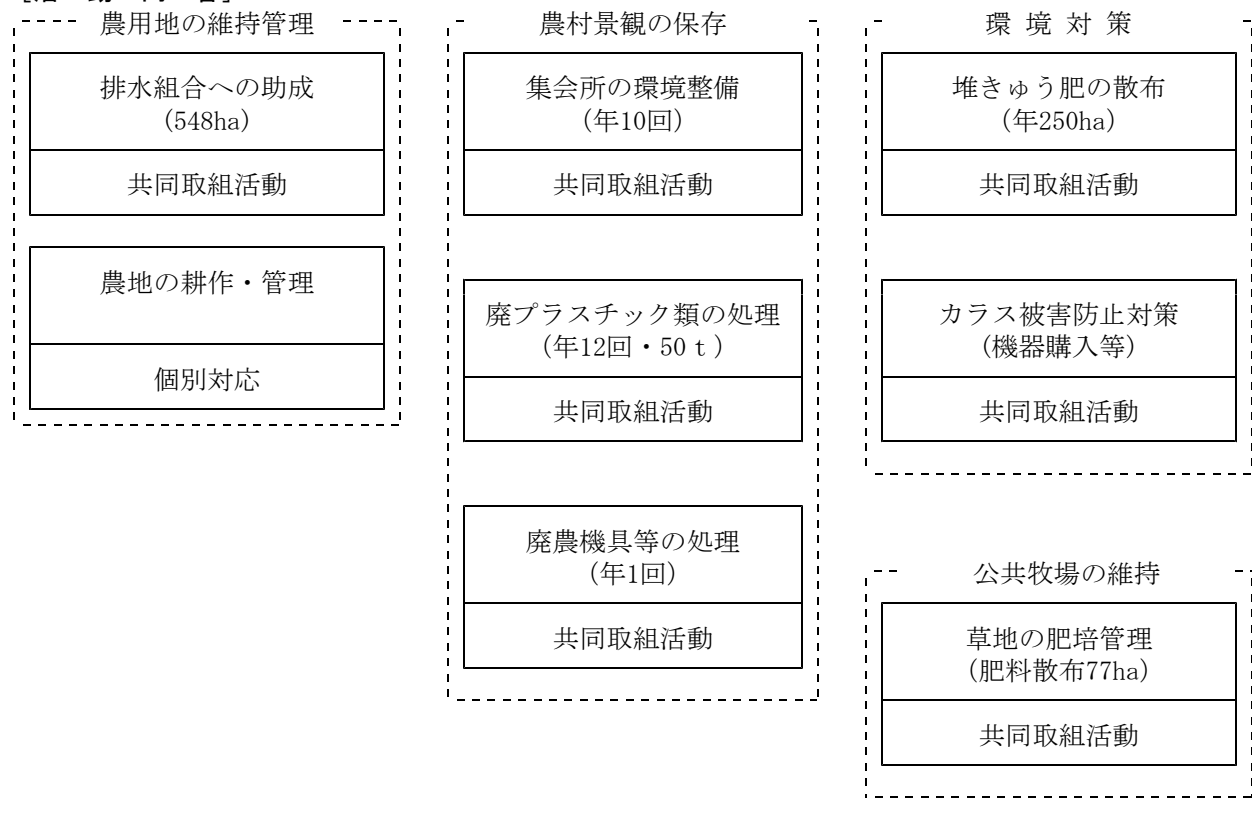
- 耕作放棄地の発生を未然に防止し、農用地の集積を進めるとともに、適正な農用地の維持管理、農村景観保持のための集会所周辺の環境整備、廃プラスチック類・廃農機具等の共同処理、環境対策としての農地への堆きゅう肥の還元を行い、魅力ある集落になるよう努める。



【将来像を実現するための活動目標】

- 耕作放棄地の発生防止に向けた適正な農用地の維持管理（水路の管理）
- 農村景観を保持するための集会所周辺の環境整備、廃プラスチック類・廃農機具等の共同処理
- 環境対策としての農地への堆きゅう肥の還元
- 公共牧場の維持管理

【活動内容】



4. 取組による変化と今後の課題等

- ・ 本交付金を活用したこれまでの取組により協定参加者の共通認識や意識の高揚が図られるとともに定期的な共同作業により集落の景観保全等が保たれている。
- ・ 集落の多面的な機能の保持のためには今後も継続的な活動が必要。

【平成22年度までの主な成果】

- 集会所の環境整備 (H17~70回)
- 廃プラスチック類の共同処理 (延べ117人参加)
- 堆きゅう肥の散布 (H17~1, 200ha散布)

<その他、取組に特徴のある事例>

○景観整備の推進

1. 集落協定の概要

市町村・協定名	北海道 <small>めなしぐんらうすちよう</small> 目梨郡 <small>みねはまちく</small> 羅臼町 <small>峯浜地区</small>				
協定面積 621.2ha	田	畑	草地(100%) 牧草	採草放牧地	
交付金額 931万円	個人配分			48%	
	共同取組活動 (52%)	集落担当者活動に対する経費			2%
		農業生産活動等に対する経費			8%
		農業生産活動等の体制整備に対する経費			0%
その他(ワクチン接種啓発と助成)			42%		
協定参加者	農業者 10人、標津町農業協同組合(構成員11人)			開始:平成12年度	

2. 取組に至る経緯

当集落は、現在10戸の農家が酪農を営んでいるが、ここ数年離農者が相次ぎ、平成21年度新規に1戸就農したものの農家戸数は減少しており、このような状況が今後も進むと生産力の衰退や地域活力の低下が懸念されるため、今後も更なる新規就農者の受け入れを課題とし、その受け入れに対しては農協やその他の関係機関と協議をしながら取り組んでいる状況にある。

このような状況の中、集落として資源循環型農業を目指すため、センター方式による家畜ふん尿処理施設を整備し経費の節減を図るとともに、経営環境及び草生環境の整備、拡充及び農用地の集積等により、有効な土地利用と農作業の効率化、地域農業の新たな担い手の育成、確保が円滑に行われる体制作り等の再整備を積極的に推進し、小規模ながら自立できる集落を目指している。

3. 取組の内容

資源循環型酪農を目指すための堆肥センターが平成17年度より稼働し、家畜排せつ物の処理及び利用の促進を図っているところであり、今後も一層の経費の節減及び労働力の軽減を図ることを目指す。また、集落周辺には3本の河川があるが、いずれも崖地に面しており、河川周辺の植樹が困難なため、農地に隣接している総合運動公園にエゾマツを植樹し環境整備を行っている。



【農道の草刈り風景】



【総合運動公園のエゾマツ植樹】

[集落の将来像]

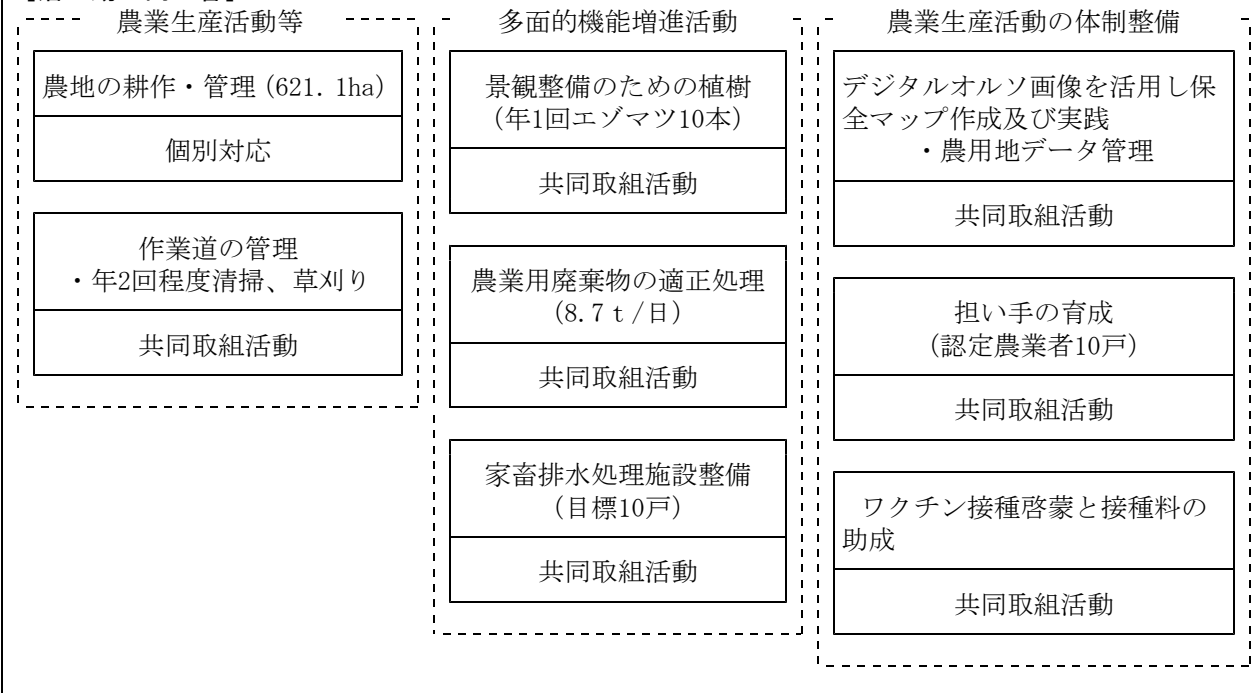
当集落は、安価で良質な生乳生産を目指し、地域と協調したクリーン酪農を進めるため、家畜糞尿に地域の生活ゴミ同時に処理するセンター方式による堆肥化を推進している。センター方式により経費の節減、労働力の軽減を図り、経営環境及び草生環境の整備、拡充及び農用地の集積等により、有効な土地利用と農作業の効率化を図り、地域農業の新たな担い手育成、確保が円滑に行われる体制作りを積極的に推進し、自立できる体制整備を目指す。



[将来像を実現するための活動目標]

- 安定的・持続的に農業生産活動を維持し得る体制の構築
- 生産性や収益の向上のための農用地集積
- 「安全・安心」な生乳生産体制の整備
- 農業環境規範を遵守した生産活動の実施

[活動内容]



4. 今後の課題等

堆肥センターが稼働してから、糞尿処理、堆肥利用については順調に推移している。しかしながら、酪農家の離農により糞尿の処理量、堆肥の生産量が減少している。また、高齢化が進む中、耕作放棄地の発生が懸念されることから地域の特性にあった支援体制づくりが必要であり、今後、後継者の育成・確保が課題である。

[平成21年度までの主な成果]

- ・牛5種混合不活性ワクチンの全頭接種 (目標633頭 H21実績749頭)
- ・バルク乳自記記録計の全戸設置 (目標10戸、H21実施10戸)
- ・草地整備 (目標45ha、H21実績103.74ha)
- ・草地造成 (目標4ha、H21実績9.9ha)